

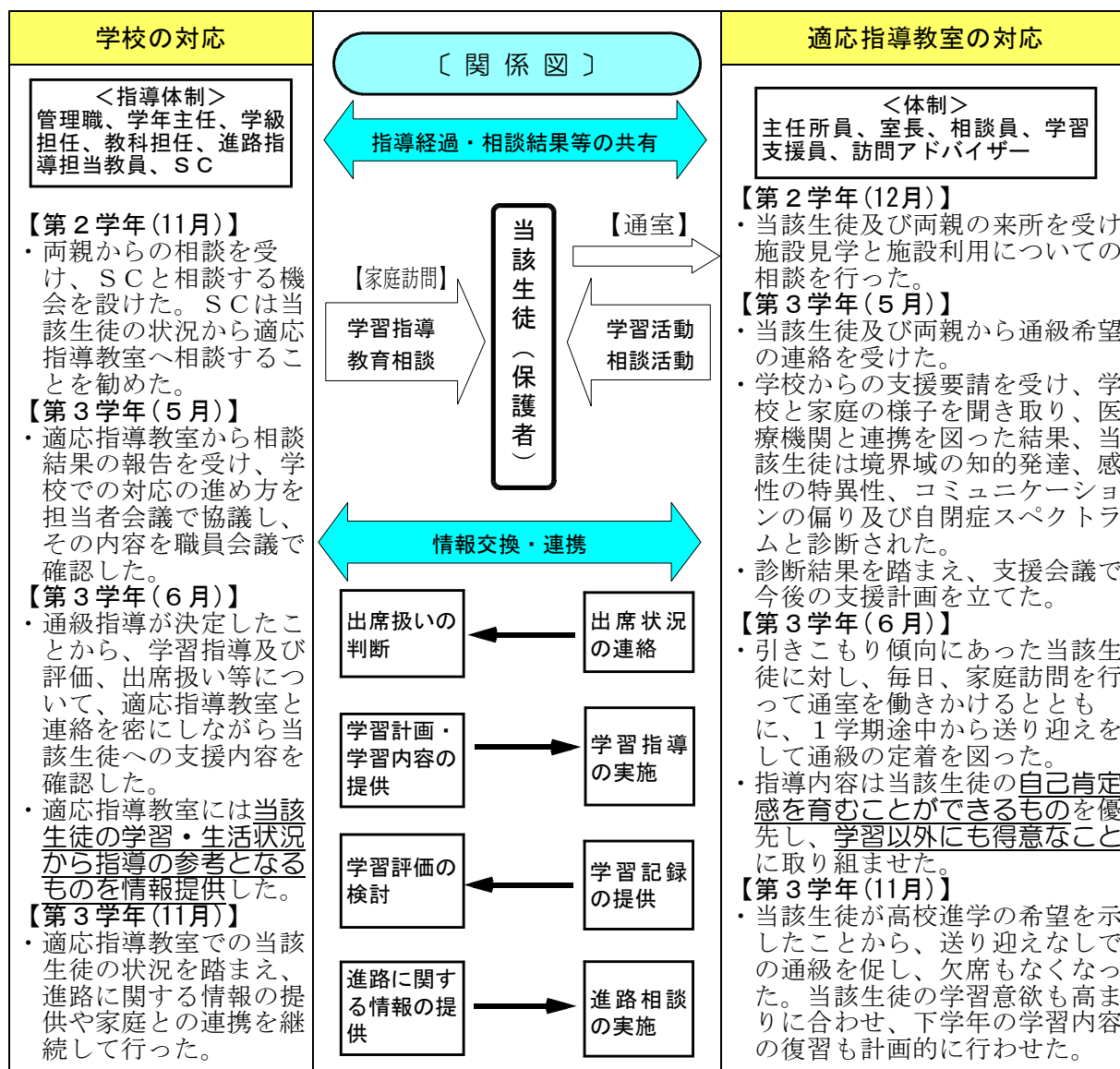
## 不登校児童生徒への対応事例 13 (中学校第3学年女子) ～進路実現に向けた適応指導教室との行動連携による対応～

### 問題の把握

当該生徒は、中学校入学当初から欠席が多く、第2学年10月から無気力、怠惰により不登校となった。当該生徒の父親が、当該生徒を強引に登校させたが、当該生徒は校内に入ることができなかった。当該生徒が自分の気持ちを周りに伝えられないことや当該生徒が何を考えているか全く分からない状況を心配した当該生徒の両親が学校に相談し、適応指導教室の通級を開始した。

### 対応状況

○第2学年11月に、当該生徒の両親からの相談を受けた学校からの支援要請により、当該生徒の学校復帰に向け、学校・家庭及び適応指導教室との連携した取組を開始した。



○第3学年12月現在、当該生徒は高校進学に向け適応指導教室に欠席せずに通級している。

### 不登校の問題に対応するためのポイント

- ・学校・家庭・適応指導教室が発達障害境界域の特性をもつ児童生徒の「分からなさ」による不安を共通理解して対応することで、学習への自信や進路実現への意欲をもたせること。
- ・寡黙で自己開示ができない傾向の児童生徒の内面を共有し、言葉による表現ができるまで待ったり、困っている時に耳を傾けたりするなど、児童生徒の特性を理解した支援を行うこと。